

## 第1号議案 2011年度(公社)浦安青年会議所 事業報告(案)承認の件

公益社団法人 浦安青年会議所 2011年度事業報告(案)

2011年度 理事長 深作 寛

「一所懸命～かけがえのないもののために～」をスローガンに掲げ、よりよき未来と更に社会から必要とされる組織を目指し、2011年5月に公益社団法人として千葉県庁より正式に認定を受け当青年会議所は新たな一步を踏み出しました。今年3月11日に東日本大震災という千年に一度という今だかつてない困難に日本人は遭遇し、私たちのまち浦安もまた液状化という未曾有の災害に直面した被災地となりました。世界的に見ても今年は中東各地での民主化運動の激化、EU諸国の経済破綻、度重なる自然災害など地球規模で激動の一年となりました。そのような中、JCという組織がこの国、地域のために何が出来るのか、何が必要なのかを模索し、青年会議所運動が戦後の焼け野原から日本を再生しようとする創始の精神を改めて再確認する機会でもありました。今年度のスローガンの「一所懸命」という語源は鎌倉時代の武士たちがどんな困難が訪れたとしても命を懸けて領土の土地を守ってきた事に由来しています。世界中が目まぐるしく変わるワールドシフトと言われる現代社会の中だからこそ、これからを生き抜く私たちに、あらためてこの言葉のもつ意味は必要であり、大切な精神であるはずです。激動の一年ではありましたが理事長としてメンバーの皆様と共に同じ時間を過ごし、様々な困難を乗り越えられた事はかけがえのない記憶として私の人生の財産となりました。

6月まで開催した浦安スマイルアゲインプロジェクトは震災の影響で遊び場を失った子供たち、液状化という不安の中で生活する市民に微力ながら、笑顔という明るい一筋の光を与えられたのではないのでしょうか。5月には音楽を癒しのツールとして様々な年齢層の市民の皆様笑顔を見る事が出来ました。6月には竹というシンプルな材料を創意工夫し、年代を超えた多くのボランティアと共に、親と子の絆、親密なコミュニティーの必要性を感じることが出来る事業となりました。市民だけでなく今回の事業で多くのメンバーが事業を行う充実感、そして絆を再認識できたように思えます。今回の事業が千葉ブロック会員大会の褒章の総合部門でグランプリ受賞という名誉を与えて頂いたことは、これからの私たちのJC運動に多くの励みとなりました。

また5月には浦安市県議会議員選挙が再選挙という前代未聞の事態に直面し、限られた時間の中で公開討論会を開催しました。今年は、中東各地で一票の権利を得るための民主化運動の激化によって多くの人間が血を流し犠牲になっている現状と共に、被災地として如何に政治が重要な要素になっているかを一人でも多くの市民に周知して頂く思いがありました。結果的には投票率に大きな効果が得られませんでした。JC運動の一環として私たちは継続して市民に民主化の恩恵と、政治参画の重要性をうたえ続ける必要があると痛感いたしました。

8月に青少年育成事業として開催した「絆アドベンチャー～自然の中で仲間と共に～」では市内の小学4年生から6年生を対象にプロジェクトアドベンチャーの手法を基に、様々な困難を仲間と協力しながら解決し、子供たちの成長に必要な自尊心を高め、どんな障害も乗り越えていける自信を与える事が出来ました。また9月に開催した「浦安ホリデーウォーキング」では、ウェルネスをキーワードに市民の皆様に浦安の情緒溢れる町中を歩いて頂き、誰にでも持続可能な健康増進の手法を学び、健康に対する意識を高める事を広めていきました。10月には今年度最後の事業として「浦安親水ハロウィン～未来へ繋がる光～」開催し、市内の多くの団体に協働して頂き、震災からの復興の中で、私たち日本人が忘れかけている「人と人とのつながり」そして豊かな水辺と「助けあいながら生きる」という地域に欠かせない大切なものを取り戻す一助になったのではないかと感じます。これらの事業を行う中で行政、関係諸団体の皆様と共にメンバー自身も委員会の枠を超え一丸となり事業運営に取り組めた事は、まさしく公益法人団体としての自覚と自信を得られたと確信しております。事業運営の手法や推進方法にはまだまだ改善すべき点は多く見られたかもしれませんが、様々な反省点の中からそれらを再構築する事が出来る団体が青年会議所運動であり、明るい豊かな社会の実現という共通意識に向かい行動する事から学べる可能性があるからこそ青年としての発展性が存在するのです。

私たちのまちには、これから先、更なる復興という困難が待ち構えています。しかしながら今回の災害から私たちは多くの事を学びました。世界から評価を受けた日本人の「おくゆかしさ」や道徳心の高さはこれからの世代に残していかなければなりません。急激な経済成長やグローバリゼーションという情報の氾濫の中で私たち日本人は、いつのまにか幸福感や何が自分にとってかけがえのないものなのかが、見えなくなっていたのかもしれませんが、人と人が支えあう地域、自分の家族や地域が世界で一番好きだと心から言える社会を改めてこのまちの復興と共に実現しなければなりません。このまちの復旧作業の時に垣間見たJCのネットワークの強さや行動力の迅速さは、まさしくJCという組織の存在意義を痛烈に感じました。被災地LOMとして、県内外の各地青年会議所の皆様には本当に励まされ、助けて頂いた一年となりました。これからも私たちJCメンバーは様々な方々と友情を深め県内外、国外を問わず幅広いネットワークを築かなくてはなりません。

結びに、2011年という激動の年を締めくくるにあたり、メンバーの皆様には幾多の苦勞をおかけしたことを深くお詫びし、また理事長として多くの皆様に支えて頂いた事を心より感謝申し上げます。そして2012年度熊木理事長率いる公益社団法人浦安青年会議所が更なる飛躍をし、早期の浦安市の復興と更なる魅力ある地域社会の実現を心より祈念し、2011年度の事業報告とさせていただきます。